

佐賀県_基山町

持続可能な地域活性化・少子化対策に結びつく取組 〔恋人の聖地 第3回地域活性化大賞 応募様式〕

プロジェクト名	基山定住サプライズプロジェクト
申請者(地方自治体名・団体・企業名など)	佐賀県基山町
1. 地域・施設の特徴	佐賀県の東端に位置し、町内を国道3号、九州自動車道、県道17号、JR鹿児島本線が縦走り、交通の要衝地となっている。 高度経済成長期に福岡市のベッドタウンとして発展してきたため、昭和から平成にかけて人口が倍増。その後、平成11年をピークに人口は減少傾向にあったが、平成28年度から人口増対策に力を注ぎ、現在では横ばいから増加傾向に転じている。 恋人の聖地に選定されている「大興善寺」への観光をはじめ、インターナショナルワインチャレンジ(IWC)で金賞を受賞した地元の銘酒「基峰鶴」や大型の鳥「エミュー」を活用したまちづくりなど、多彩なシティプロモーションを行っている。
2. 地域活性化に結びつく活動目標・目的などについて	第5次基山町総合計画 人口目標 18,000人(令和7年) 【第2期基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略】 目的:結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり 目標:定住人口増 500人
3. 地域活性化に結びつく活動内容・実績などについて	平成28年度から福岡都市圏の子育て若者世帯をターゲットにした移住定住施策を展開。具体的には、 ① 空き家を活用した移住体験住宅を2棟整備し、約100組の移住体験を受け、その内10組が町内へ移住。 ② 子育て若者世帯の住宅取得補助金を開始し5年間で522人が移住。 ③ 新婚世帯の移住を促すために、新婚世帯家賃補助金(3年間で104名が移住)や結婚新生活家賃補助金事業を実施した。 ④ 子育て若者世帯向け地域優良賃貸住宅『アモーレ・グランデ基山』をPFI方式で建設し、オープンから今日まで30戸が満室。 ⑤ 子育て世代の就労支援や子育て支援を目的とした、『基山っ子みらい館』を建設し、子育て交流広場や町立保育園を併設して運営を開始した。 ⑥ 民間分譲マンションの建築の際に、まちづくりに関する協定を締結し、協定に基づきマンション内に民間保育園を併設した。 ⑦ 住宅金融支援機構と協定を締結し、子育て世帯が住宅を購入する際の受託ローンの金利優遇を行った。 ⑧ 大型の鳥「エミュー」を使った動画を作成し、福岡都市圏でのテレビCMや博多駅等の大型ビジョンで放映し、シティプロモーションを展開した。
4. 取組みに関する広報活動・SNS配信などについて	(※審査以外での掲出・公表しません)
5. 活動の効果(地域の反響)	(※審査以外での掲出・公表しません)
6. 数字で表す実践前と実践後の成果・比較	(※審査以外での掲出・公表しません)

7. 成果・注目ポイント(写真と説明文)	
	
<p>平成29年6月から移住体験住宅事業をスタート。大学と地元工務店・建築組合の協力を得て、築40年以上の空き家を2棟リノベーション。新築同然となった物件は無料で最大2週間利用可能。</p>	<p>シティプロモーションの一環でエミューや町民の方々を活用したCMやチラシを作成。福岡都市圏のテレビ、バス、駅などで放映。大きな反響を得た。</p>
	
<p>役場が移転して空き地となっていた場所に、基山町初となるPFI方式による子育て・若者世帯の定住促進住宅を建設。入居申し込み開始から1か月で30戸が満室に。</p>	<p>平成28年度から開始した子育て・若者世帯の住宅取得補助金。移住定住に大きな成果を上げている事業で、現在では各種加算金を合わせて最大70万円の補助事業に。</p>
	
<p>令和2年度に新設した「基山っ子みらい館」は誰もが気軽に訪れることができる子育て支援及び就労支援のための拠点施設と位置付け、基山町版ハローワークとの近さを最大限に活用して、子育て世代の働く力を引き出し、地域の人々のワークライフバランスの向上と雇用創出や事業者の生産性革命による地域活性化を推進しています。</p>	<p>平成11年の19,153人をピークに約20年で17,314人まで減少。 平成28年から定住サプライズプロジェクトを開始し、人口減少に歯止めが掛かり、現在は17,518人と増加に転じている。</p>